

医療的ケア児を支える ワーキンググループ報告書



「すべての子どもたちが 自分の未来を描けるように」



石川県訪問看護ステーション連絡会

ごあいさつ



石川県訪問看護ステーション連絡会
医療的ケア児を支えるワーキンググループ
リーダー 高島 久美子



この一年、私たちは医療的ケアが必要な子どもたちとそのご家族を支えるため、関係者の皆さまと丁寧に意見交換を重ねてまいりました。訪問看護師の皆さまへのアンケートでは現場の実情を伺いました。

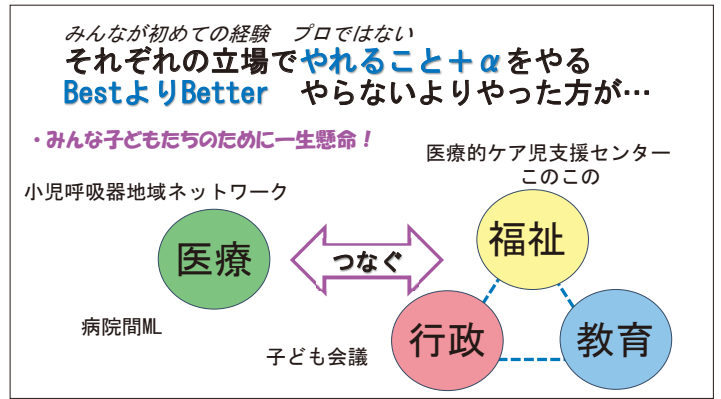
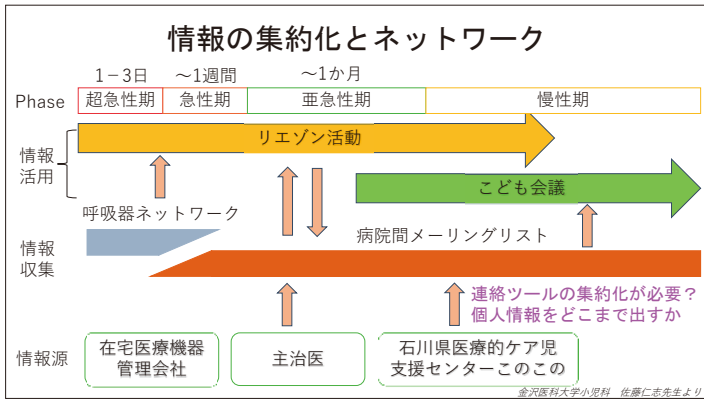
また、「すべての子どもたちが自分の未来を描けるように」をテーマに開催した在宅看護フォーラムでは、立場を越えて思いを共有し合う中で、「つながり」の持つ力を改めて実感いたしました。医療・福祉・教育・行政、そしてご家族の皆さまから寄せられた多様な声は、私たちの活動を推進する大きな原動力となり、支援のあり方を見つめ直す貴重な機会ともなりました。

当報告書には、今年度の取り組みの歩みとともに、皆さまからいただいたご意見や気づき、そして未来への願いをまとめております。小さな一歩の積み重ねが、やがて大きな変化へとつながることを信じております。

私たち訪問看護師は、医療的ケア児とそのご家族が地域の中で安心して暮らし、笑顔で過ごすことのできる社会の実現を目指し、今後も共に学び、支え合いながら歩みを進めてまいります。

最後に、本活動にご協力くださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。





思うこと（医療的ケア児に関して言えば…）

- 元旦という特殊なタイミング→普段の生活以外の場所での被災者もいた
帰省中のスタッフも多かった
福祉避難所（支援学校など）が機能不全
- 顔の見える関係ができていた（医師、多職種）→初動が早かった
- 県内でも医療的ケア児が少ない地域の被災であった。
石川中央医療圏が無事 県内移送のみで医療支援ができた
- 医療的ケアが必要な子どもの把握が不十分

今のうちに…

- 中央医療圏被災の想定をしておく必要がある 想定外が起こりうるという想定 事前避難入院 自助・共助
- 地震のみならず風水害、雪害の想定 災害の種類によって想定、対応が異なる
- 個別避難計画書の作成と共有 災害時あんしんファイルとのコラボ 災害訓練
- 各市町、県内、北陸・中部地域、全国広域との支援・連携の振り返り 公助
- 各医療機関のシュミレーション（施設自身の災害対策と地域連携）
- 顔の見える関係づくりの継続 支援者・当事者ともに 孤独にしない つながる

このこの 災害から子どもを守る為の取組み

いしかわ医療的ケア児支援センターこのこの
「尊いいのちを守る」ための行動

- 一災害に備える
- 一災害から守る
- 一災害に強くなる

災害対策6部作

- 1) 当事者・医療機関と行う災害避難訓練（2017年～数回）
- 2) あんしんファイル（継続中 2024年再考）
- 3) 防災キャンプ（9月28日実施）
- 4) 被災地のお母さんたちの語り合い（9月26日）
- 5) 個別支援計画立案デモンストレーション（9月6日）
- 6) 支援者向け研修会（11月10日）

2)石川県における「あんしんファイル」の作成・配布・普及 —どこでも「この子」の状態がわかるもの—

■石川県内の医療的ケア児（できれば全員）が
同じファイルを携帯
⇒災害時など主治医でなくても対応可能にする！
⇒広く周知してもらい、長く使ってもらえるものにする！

■ご家族と地域の支援者が、患者さんごとの災害時の
対応についてシュミレーションする際のサポートとして活用
⇒ご家族と支援者で、『OOちゃん用のファイル』を作ろう
⇒作成の過程で、地域にOOちゃんの事を知ってもらおう
県全体への周知不足（能登地区までは…）
情報の更新 が課題

・支援学校・公立学校を通じて所持の有無確認とリスト化
医療的ケア児コーディネータにも依頼＆ファイル渡し
・県内小児科医師にも周知（日本小児科学会石川地方会で発表）
・県が内容の一部更新実施

医療的ケア児の避難

北良株式会社 笠井健氏より

- 電源の確保
電源を必要とする医療機器が多い
予備酸素 空調 エアマット 照明
- 必要な医療品・医療備品が多い
- 移動のリスク
機器 移乗移動 喀痰吸引 体温調節 時間帯による（道路、信号）
- 避難先の環境

R6能登半島地震支援報告

北良株式会社 笠井健氏より

電気より水だ

北良ほか3社で 手分けして配置 シャワー、手洗い設備を設置

仮設トイレは3日目以降
それまでは自力で対処
ノロでも流行れば大変 最初から感染対策

- ・手洗いの重要性
- ・アルコールの適正な使いかた 掲示
- ・女性を守る必要性（食事、介護 育児 いろいろに従事）
- ・課題やニーズをもった人ほど公助を受けにくい
自衛隊風呂（性別、時間帯の制限）
支援者自体が利用しづらい
生理、乳がん
- ・支援スタッフのライフラインを確保することが重要



医療的ケア児と共に 災害に備える

いしかわ医療的ケア児・障害児家族グループ
「PareTTe(パレット)」
谷畑 由佳



パレット PareTTeについて

発足 2021年6月

対象 石川県内の医療的ケア児と
(主に)重症心身障害児の家族

人数 2025年6月現在 約60家族



- LINEグループやZOOMなどを利用した、「いつでも」「どこからでも」参加できるオンラインでの交流・情報交換が活動の基本
その他、年に数回リアルに会うイベントを開催
- 医療的ケア児者家族会の全国組織「**全国医療的ケアライン**」 石川県窓口団体

「安否確認が来る」ありがたさ

2024年1月1日の能登半島地震発災から数日で

- いしかわ医療的ケア児支援センター「このこの」Nさんからの安否確認
 - 娘の主治医 K先生からの安否確認
 - 全国医療的ケアラインからの安否確認・情報提供
- その他、多くの友人・知人から連絡があった

安否確認ができるのは、平時からの「つながり」があるから
存在を把握していないとすぐには連絡できないし、救助の手配もできない

人とのつながりは 大事な災害対策の一つ

「すごく頼りになる1人」とよりも「いろんな方向と」のつながりが必要

情報を必要なところにつなぐ

自分の周りには大きな被害は無かったが、能登にも医療的ケア児や障害児は住んでいる
直接の知り合いではなくても到底他人事とは思えない 「何とか力になりたい」

全国医療的ケアライン(アイライン)やSNSを通じて情報は入ってきたので
「このこの」のNさんにお知らせしたりパレットのInstagramで発信したりした

アイラインの他県の方から、摂食嚥下に強い「つばさ静岡」のA先生と
とろみ剤等の食品メーカーさんが支援を申し出てくださったと連絡あり

- ➡ Nさんから「重症心身障害児者が避難している病院で形態食が足りない」と聞き
この件をお伝え
- ➡ A先生と連絡がつき、メーカーさんから物資提供していただけることになった

まずは「自助」から考える

災害時は、いつも支えていただいている「支援者」も、ほぼ全員が「被災者」となる
→一方的に「支援してもらう」関係は成り立たない

- 自身で備えることがまず大事
- 「もちつもたれつ」の関係を作る

自助

備蓄をする
非常用持ち出しバッグ
家具の転倒・落下防止
非常時の連絡手段
避難経路の確認

共助

ご近所との関係づくり
存在を知ってもらう
&知る
関係者の
ネットワーク

公助

避難行動要支援者名簿
個別支援計画作成
避難所(一般・福祉)
行政の備蓄品

最も大事なものは

常に複数のパターンを考え
具体的にシミュレーションしてみる

避難ルートを1つだけ考えておいても、災害時にその道が通れるとは限らない
特定の支援者を想定した計画は、その人が来れない場合には実践できない
「ケアはこの方法」という確固たるルーティンは、非常時の生活では再現が難しい

医療的ケア児は、もともと取れる選択肢の数が健常の子よりも少なくなりがち
だからこそ、発想を柔軟にして一つでも多くの方法を模索する必要がある

「仲間」を増やす

被災時の 避難支援者として

医療的ケア児は医療関係者しか関われないようなイメージ
しかしどうしても荷物が多くなることは避けられないので
荷物だけでも持ってくれる人がいると、とても助かる

複数パターンを 共に考える人として

一人で考えられることには限界があるが
いろいろな人がいるとそれぞれ違うアイディアが出てくる
「三人寄れば文殊の知恵」

情報交換の 相手として

マイノリティである医療的ケア児や障害児が使える情報は
平常時もさることながら、非常時には特に見つけにくいもの
その分野に関心のある人同士でこそ、見つけて共有もできる

日頃から安心・安全を求めすぎない

医療的ケア児の生活は「安心」「安全」を第一に考えることが多い
体調を崩さないように、決まったルーティンで決まった生活範囲の中で生きるのは
確かに穏やかに過ごせるし余計な労力もかからない

しかし、強制的に「非日常」の世界に放り出されるのが災害時
慣れない環境下で決まったルーティンをこなせるはずもなく、本人も親も不安が増すし
それ自体が体調を崩すリスクにもなる

- 日常を離れる経験が臨機応変な対応力につながる
＝旅行やキャンプ、お出かけが災害対策になる！
- 「〇〇じゃないとダメ」を減らし、選択肢を増やす

「すべての子どもが自分の未来を描けるように」

第二部 シンポジウム

「医療的ケアがあっても 住み慣れた地域で過ごしたい」

いしかわ医療的ケア児支援センター

このこの

中本 富美



「このこの」の活動3つの柱

教育

～そだち・まなび～

子どものいる通
こども園・保育園・幼稚園・
小学校・中学校・
高校・特別支援学校など

遊びや学びを通して子どもは
成長発達していきます。
医療的ケアが必要な子ども
のいる通が学校の先生や友達と
のつながりの中でより豊かな
成長が促されるように支援しま
しょう。

医療

～いのちを守る～
～健康を保つ～

病院・診療所・薬局・訪問
看護・リハビリテーション
等

医療的ケアが必要とする子
どもが適切な医療につながり、
自宅でも訪問看護やリハビリ
療法士が自宅でのケアを支
援し、その子どもの健康を保ち、
元気に成長することを支援
しましょう。

福祉

～くらし・地域づくり～

市町・相談支援事業所・障害
福祉サービス事業所・障害児
者入所施設・当事者・家族会
など

医療的ケアが必要な子どもが
さまざまな体験を通して、
子どもらしい発達を促します。
また子どもの障害を支え、家
族の支援を充実させることで、
家族全体が安心して暮らせる
ように支援しましょう。
子どもがいる場所が豊かな
地域になります。

「子ども」としての成長発達

【強調しておきたいこと】

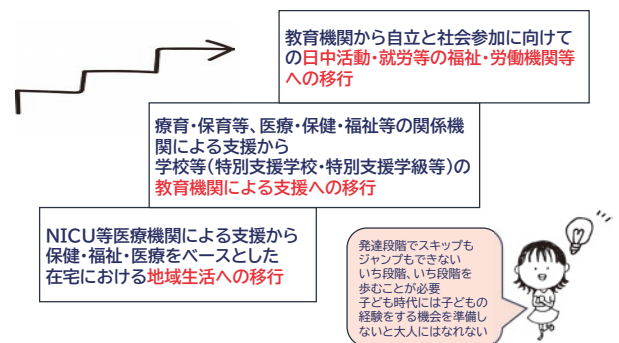
医療的ケアが必要な状態であっても

子どもとしての**成長発達**をしていくということ

その成長発達はどの子どもも自然に身に付けて
いくということではないこと

意識的にその成長発達に必要な環境と経験・機会
を提供していく大人の責任があるということ

移行期における途切れない 支援体制が重要



ライフステージに応じた支援 成長過程においてその時々課題を見据え 支援者・仲間を増やす

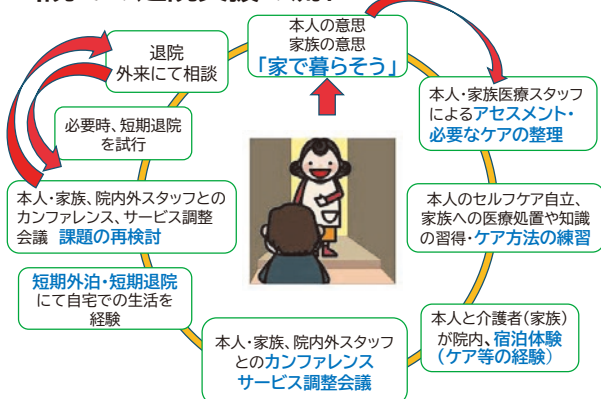
乳児・幼児期	児童期	青年期	成人期
医療スタッフ 障害福祉サービス 家族 同世代の子ども 保育園等先生 地域のひと 当事者会・家族会 あそび 幼児期の体験	医療スタッフ 障害福祉サービス 家族 同世代の子ども 学校等先生 異年齢集団 地域のひと 当事者会・家族会 あそび 児童期の体験	医療スタッフ 小児科 成人診療科 障害福祉サービス 家族 同世代の子ども 学校等先生 異年齢集団 サークル仲間 地域のひと より広い社会へ	医療スタッフ 成人診療科 障害福祉サービス 家族 同世代のひと 学校等先生 異年齢集団 地域のひと 就労支援関係者 働く同僚や上司 より広い社会へ

自宅で暮らせる条件 (入院中、退院に向けての準備)

子どもの体調(状態)安定していること
家族が心身とも健康であること
子どもの成長発達を促す支援があること
「助けて」を言える人や場があること

子どもも家族も孤立していないこと

当院での退院支援の流れ



大事な視点

- 退院は通過点。これからが子どもと家族にとつてのスタートという意識
- 子どもの成長発達の視点をもつということ
- 医療的ケアにとらわれすぎないこと
- 子育てを支援するということ(医療的ケア≠子育て)
- 私たち支援のありようが子どもの成長発達を規定する
- 子どもの支援は総力戦
- ソーシャルワーク支援が重要

地域とのつながり 「遠くの親戚より 近くの他人」

医療的ケア児や重症心身障がい児を連れての避難は
大人一人だけでは不可能な場合が多い
→「自助」のみでは無理、「共助」が大切

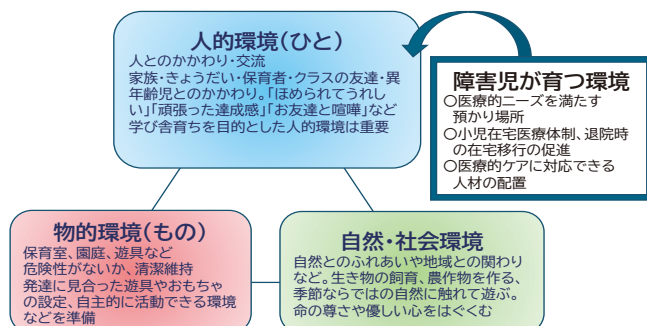
医療的ケアや障がいのある子という
専門職しか関わってはいけなようなイメージを持たれがちだが
緊急時、まず一番欲しい助けは「荷物を持ってもらうこと」
多くの人は「たくさん荷物が必要なこと」自体を知らない

「あの子」として存在や暮らしを知って、関係ができてこそ
「あの子避難できそうかな」「何かできることないかな」と
考えてくれる余地が生まれる

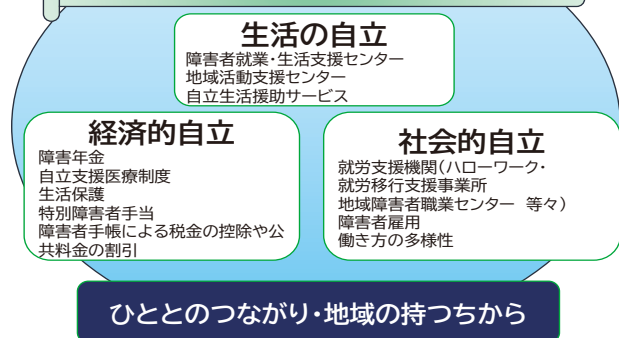
×一方的に助けてもらう関係 ○地域にいる一人の子ども

子ども・医療的ケア児 子どもが育つ環境とは

厚生労働省 令和元年度障害者総合福祉推進事業 医療的ケア児者とその家族の生活実態調査報告書
令和2(2020)年3月 手ぶら登壇 保育コラム を参照・抜粋



自立のための社会資源 ノーマライゼーション・障害者権利条約を背景として



自宅で暮らせる条件 (入院中、退院に向けての準備)

子どもの体調(状態)安定していること
家族が心身とも健康であること
子どもの成長発達を促す支援があること
「助けて」を言える人や場があること

子どもも家族も孤立していないこと

➡
このこではなるべく早く子どもと家族に出逢って
もらうために…「医療的ケア児等コーディネーター」
さんと一緒に行動します

地域における医療的ケアが必要な子どもの支援の中心的
担い手「医療的ケア児コーディネーター」の活躍

医療的ケア児等コーディネーターとは

【必要性】

子どもの関わる課題 多分野・必要なサービスも多岐
保健・福祉・子育て・教育など必要なサービスを総合的に調整

【子ども・家族に】

子どもとその家族に対し、適切なサービスを紹介
同時に関係機関と子どもとその家族をつなぐ

【支援者間】

支援にかかわる多機関・多職種との連携を図る

【地域づくり・システムづくり】

個別の課題を地域の課題として提案
地域の中に支援のシステム構築

求められる知識と技術

【知識】

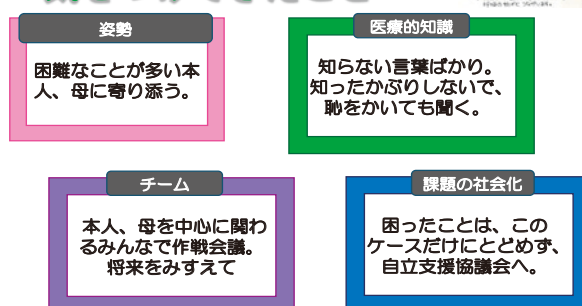
- 医療的ケアについての知識がある(医療職等に関わる人や関係がある)
- 病が障がいの与える子どもの成長発達への影響を知っている
- 子どもの成長発達への知識がある
- 成長の成長発達の為に有効な手段・方法・選択の提案ができる

【技術】

- 子どもにとって成長するための場につなぐ・交渉する・開拓することができる
- ミクロな支援から発し、子どもに必要な支援についてメゾ・マクロレベルで発信できる
- 「この子」にとって「こんな人との出会いがあったらいいな」「こんな機会やチャンスがあったらいいな」という発想ができること
それを具体的に声をかけ、仲間作りができる、チームを作る

相談支援センターたいよう 矢崎 幸代 Rちゃんの支援者の立場から

相談支援専門員として 気をつけてきたこと



医療的ケアがあっても 住み慣れた地域で過ごしたい ～Rちゃんの成長を通して～

はは より

【就学にあたって】



・教育委員会から地元小学校支援級の判定。

・学校看護師が常時、配置されることになった。
～Rちゃんのこと、わかってもらえた～

・入学前に、他の児童の理解を得るため、「Rちゃんのひみつどうぐずかん」を作成。校内で周知。

「Rちゃんのひみつどうぐずかん」より
一部抜粋

Rちゃんは、からだは小さいけれど
げんきいっぱいのおんなのこ。

〇〇しょうがっこうの 1ねんせいです。

Rちゃんは ひみつどうぐといっしょに
がっこうにいきます。

みんなにも ひみつどうぐを しょうかい
します。



Rちゃんの ひみつどうぐ ②

こきゅうき



のどに ホースで くうきを おくります。

つなぐと いきがらくになります。

だいしやに のせて Rちゃんが はこびます。



1ねんせいのきょうしつで
みんなと いっしょに
べんきょうしたり あそんだりも します。
ともだちが いっぱいできたら うれしいな。

2ねんせい、3ねんせい、4ねんせい、
5ねんせい、6ねんせいの
おにいさん、おねえさんたちにも
たくさん あえるのが 楽しみです。



Rちゃんは ちいさいから
どーんと ぶつからないように
きをつけてくれたら うれしいな。



Rちゃんが こまっていたら
せんせいか かんごしさんに しらせ
てね。
みなさん よろしく おねがいします。



・たんを すいとる

かんごしさんだけがで
きる

・はずれたカニューレを取り付ける

・カニューレがはずれたら

すぐに つけないと

いきが できなくなる。

いのちの
きけん

だから・・・かんごしさんがいつもそばにいる



わたしのことをしっていて
ありがとう

もっとみんなのことも
しりたいです



小6 修学旅行に向けてのしおり



Rちゃんとながらあうために

- ① 修学旅行で お願いしたいこと
- ② どうして看護師さんが いつもついているの？
- ③ ろう下の事についてのお願い
- ④ 私の好きな物・遊び

訪問看護ステーションにおける 医療的ケア児のアンケート結果



石川県訪問看護ステーション連絡会
医療的ケア児を支えるワーキンググループ
津幡訪問看護ステーション
西 かおり

1

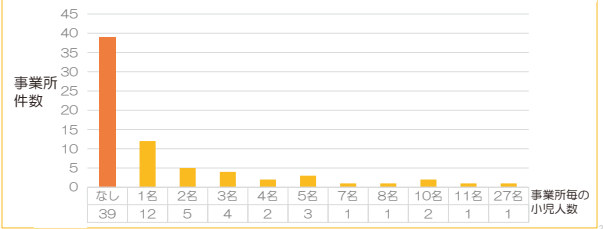
I. 石川県内訪問看護ステーションの実態調査

調査期間：2024年10月28日～11月20日

回答数：対象事業所142件中 71件（回答率 50%）

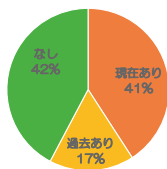
1. 2023年度 小児訪問件数別事業所数

n=71



2

2. ステーション開所時より2024年9月までの 小児受入れの有無



n=71

小児訪問	件数
現在あり	29
過去あり	12
なし	30

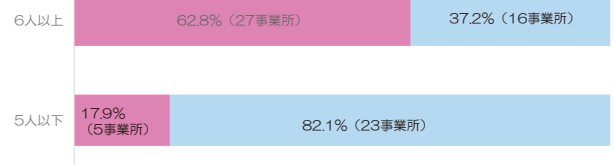
3

3. 看護職員数別 小児訪問の有無

看護職員数

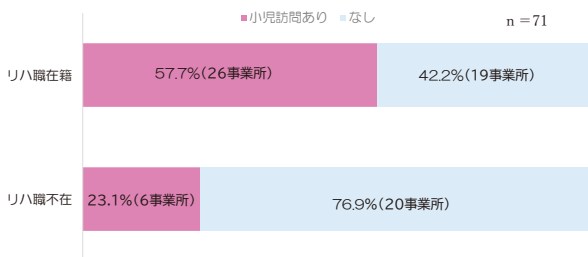
■小児訪問あり ■なし

n=71



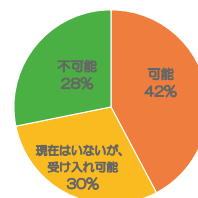
4

4. リハ職在籍による小児訪問の有無



5

5. 小児訪問看護の今後の受け入れ状況



n=71

今後の受け入れ	件数
可能	29
現在はないが、受け入れ可能	21
不可能	20

6

*小児の訪問を受け入れできない理由 (不可能な事業所20件)

- ・小児看護経験者がいない 13件
- ・人員不足 10件
- ・施設看護が主
- ・精神科、高齢者が対象
- ・癌末期の患者さんが多く緊急訪問が頻繁で、確実な時間に訪問に行けない。

7

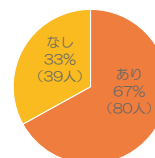
II 小児の訪問看護を行っている事業所対象の調査

対象： 28事業所 訪問看護利用中の小児 118人

調査期間：2024年9月分

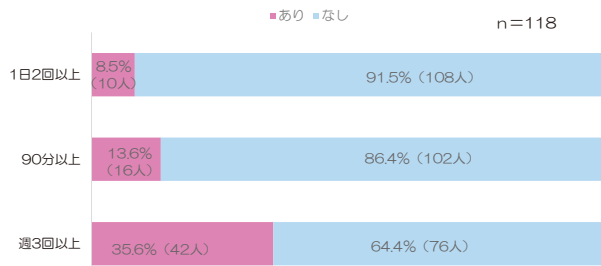
1. 訪問している小児の医療的ケアの有無

n=118



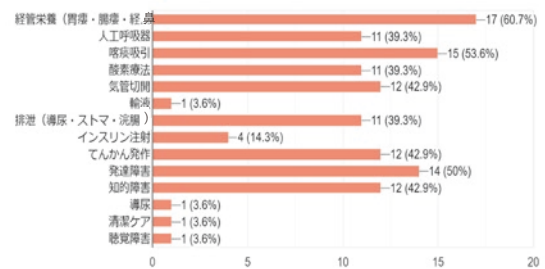
8

2. 小児への訪問看護頻度と時間



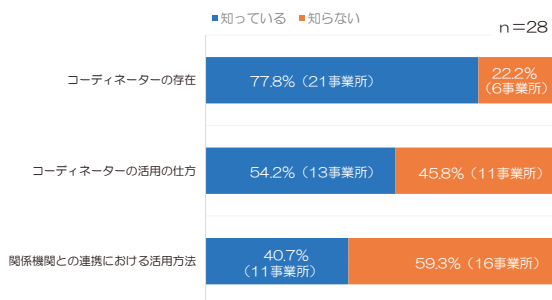
9

3. 事業所別 小児の医療的ケアや状態 (n=28)



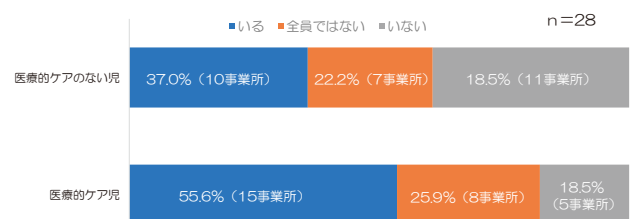
10

4. 医療的ケア児等コーディネーターについて



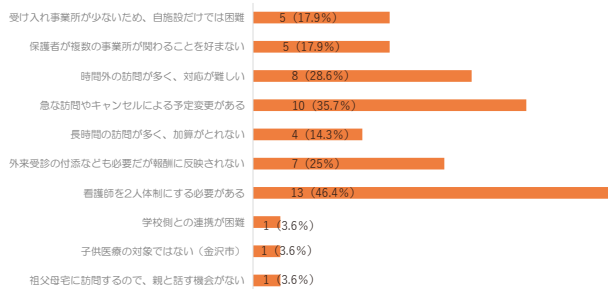
11

5. 相談支援専門員の有無



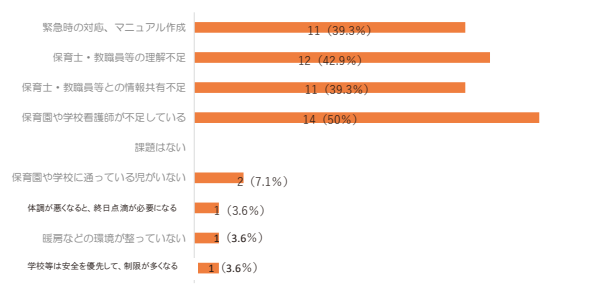
12

6. 訪問する中で感じている課題【訪問看護】



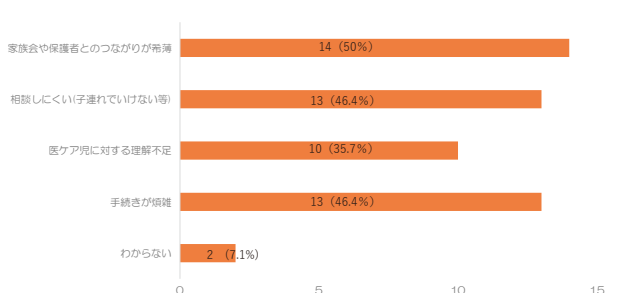
13

7. 訪問する中で感じている課題【保育所・教育現場】



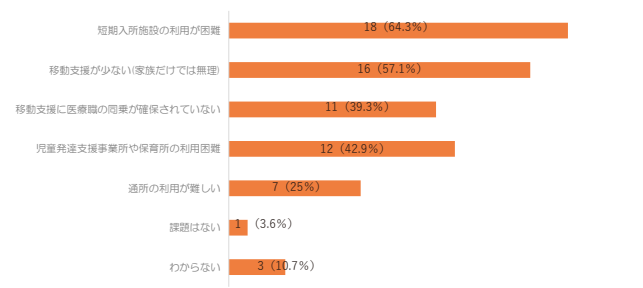
14

8. 訪問する中で感じている課題【行政機関との関係】



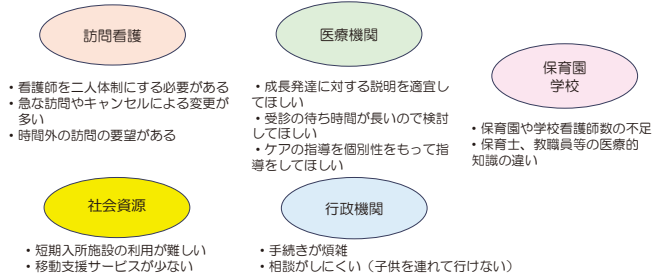
15

9. 訪問する中で感じている課題【社会資源】



16

【医療的ケア児が地域で暮らすための課題】



17

【医療的ケア児を支援するための私たちの課題】

- ・病院との連携、行政、学校など他機関との連携会議などがもっと必要。
- ・医療的ケア児の兄弟への配慮も必要。
- ・訪問時間は、朝一番か夕方に重なる事が多い。
- ・患児の安全のために、看護師二人体制での訪問が必要なことも多い。
- ・介護者の精神的な支援もしていきたい。
- ・家族は訪問看護を希望しているが、保険制度的に回数や時間の制限があり対応できないこともある。
- ・小児看護の経験がない訪問看護師もいる。



18

【解決策】

- ・訪問看護師、リハ職員の人員の充足
- ・定期的な学習機会、関連の制度などの学習機会の確保
- ・病院主治医、訪問診療医、訪問薬剤師との連携
- ・行政や相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーターとの連携と協働
- ・病院との連携や受診のしやすさの確保
- ・保育園や学校看護師との連携
- ・石川県独自のサービスの構築



多職種みんなで手をつなぎ、住み慣れた地域で
すべての子供たちの笑顔ある未来のために
私たちは橋渡しをします！

19



石川県 市町別 こども医療費や支援制度の現状

	市町村名	こども医療助成対象年齢	訪問看護自己負担	その他の支援
南加賀地区	能美市	0～18歳まで負担金無料	現物給付	衛生用品等購入費助成制度 ¥4,000 円 / 月 訪問看護レスパイト事業 1 時間 8,500 円 (1 割負担) 2 回 / 月 1 回 2.5 時間まで
	川北町	0～18歳まで負担金無料	現物給付	日常生活用具の給付 (1 割自己負担) 家族支援の手当 ¥30,000 / 月
	小松市	0～18歳まで負担金無料	現物給付	衛生用品等購入費助成制度 ¥5,000 円 / 月 家族ほっとサポート (自宅に訪問看護師が訪問) 1 時間 8,500 円 (1 割負担)
	加賀市	0～18歳まで負担金無料	現物給付	衛生用品等購入費助成制度 ¥6,000 円 / 月 訪問看護レスパイト事業 1 時間 8,500 円 (1 割負担)
金沢地区	金沢市	入院は 0～18歳まで負担金無料 0～15 歳外来受診 1 回 500 円 (1,000 円以上は償還)	健康保険負担額	
	内灘町	0～18歳まで負担金無料	償還払い	日常生活用具給付 (3 % 自己負担) 障害者福祉サービスとしてショート、地域生活支援事業としてレスパイトの利用可。
	津幡町	0～18歳まで負担金無料	現物給付	1 校が医ケア児を受け入れ、学校看護師を配置している。
能登地区	宝達志水町	0～18歳まで負担金無料	現物給付	日常生活用具給付 衛生用品等購入費助成制度 ¥6,000 円 / 月
	中能登町	0～18歳まで負担金無料	現物給付	ファミリーサポートセンター 保育園等への送迎および開始前や終了後の預かり、 冠婚葬祭、買い物の際の預かり、 保護者等の病気や通院の際の預かり 保護者がリフレッシュの際の預かりなど
	七尾市	0～18歳まで負担金無料	現物給付	応援サービス券対象児童 1 人につき 1 万円分支給 (500 円券 × 20 枚) ファミリーサポート事業 保育園等の送迎や急な用事での一時預かり、宿泊預かり

訪問看護師に期待する事

いしかわ医療的ケア児・障害児家族グループ
「PareTTe(パレット)」代表 谷畑 由佳

我が家の在宅生活が始まったのは、娘が1歳4か月の時でした。生後3か月で発覚した病気の治療のために入院してから、想像をはるかに超える1年以上の月日を経てようやく退院できた当時、在宅で受けられる支援は訪問看護だけでした。

退院後も、娘には息を止めてしまうてんかん発作があり、目を離すことができませんでした。外出中に発作が起きたらどうしようという不安から家にこもりがちになり、日中は娘と2人きり。夫は仕事で忙しく、頼れる親族もいない中、訪問看護師さんが来てくれる日は、私にとって「大人と話せる時間」でもありました。「〇〇ちゃんは見ているから、少し買い物に行っておいで」「外で息抜きしておいで」と声をかけてもらえたことに、どれほど救われたかわかりません。



今思えば、病院のように十分な体制が整っているわけではない個人の家で、「てんかん発作で息を止める可能性のある子」と2人きりになることは、看護師さんにとっても不安があったはずです。それでも、そんな様子を見せずに、笑顔で「行ってらっしゃい」と送り出してくれたことのありがたさを、何年も経った今でも思い出して胸が温かくなります。

あの頃、娘だけでなく、私自身もまた「看護」されていたのだと思います。

訪問看護は患児本人に対して行われるものですが、24時間体制で医療的ケアを含む育児にあたる家族が心身の健康を保つことは、決して容易ではありません。

時には、自分でも気づかないうちに追い込まれていることもあります。医療的ケア児の親による悲しい事件のニュースに、「他人事ではない」と感じる当事者家族は少なくありません。自分の体調が悪くても病院に行くタイミングが取れず、受診できた頃には状態が悪化していたという話もよく耳にします。



子どもの生活を守りたい、これからの日々を見守りたいという思いは、家族も訪問看護師さんも同じだと思います。だからこそ、子どもだけでなく、そばにいる家族が元気でいられるよう、どうか力を貸してください。家族の一員ではないけれど、定期的に関わる訪問看護師さんだからこそ気づけること、できることがきっとあると感じています。

医療的ケア児のためのグッズ

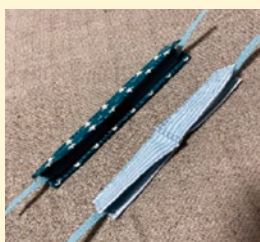
● 医療器具使用時の工夫

訪問看護師が児のために工夫して作成したものや既製品を代用したものを紹介します。

人工呼吸器が外れないように作成したカバーと
気管カニューレのベルトが首に食い込まないように
カバーしたベルトです。



人工呼吸器のカバー



気管カニューレのベルト

人工呼吸器を台車に乗せて、自分で押して移動
します。階段は学校看護師が台車を持って、先生
と児が手をつないで昇降します。



車いすで移動中は、足元に点滴を下げています。



靴をはいたまま、足指で SPO2 を測定するた
めにセンサーラインを出せるようにしています。



吸引グッズ

痰の吸引のために、チューブを保管するケースや消毒綿などをひとまとめにしていると、
使いやすいです。



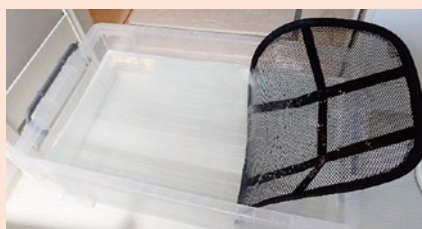
● ケアグッズの紹介

ベビーベッドにコートフックを結束バンドで取り付け、経管栄養を下げます



入浴グッズ

衣装ケースに車用背あてクッションを入れて、児の体を支えます。バスチェアも代用可能です



● 知育グッズ

知育玩具なども訪問看護師が作成しています
これは、形に合わせて穴にあてはめていくものです。



● 福祉用具



自宅や車で移動中に児が座するためのもの（座位保持装置）などは日常生活用具給付を利用できる場合があります。

車いす作成には申請から1年ほどかかる場合があるので、早めに市町の福祉課などに相談しましょう。

石川県訪問看護ステーション連絡会

医療的ケア児を支えるワーキンググループメンバー一覧（敬称略、五十音順）

久能 恵美 恵寿総合病院訪問看護ステーション
高島久美子 なないろ訪問看護ステーション
中條 綾乃 羽咋市在宅総合サービスステーション
橋本ゆかり 和み訪問看護ステーション
西 かおり 津幡訪問看護ステーション
伴 いずみ 白山松任訪問看護ステーション
前田 恵美 SOMPO ケア金沢笠舞訪問看護
山越亜由美 石川県医療在宅ケア事業団

山田 咲絵 Luna-Station あじさい
山本 圭美 加賀市医療センター訪問看護ステーション「りんく」
吉田美智代 能美訪問看護ステーション

● 事務局

上野谷優子 石川県看護協会
宮本由香里 石川県看護協会





医療的ケア児を支えるワーキンググループ
「すべての子どもたちが自分の未来を描けるように」

2026年3月発行



公益社団法人 石川県看護協会 内
石川県訪問看護ステーション連絡会

〒920-0931 金沢市兼六元町3-69

TEL(076)225-7771